

報道関係者 各位

2022年9月26日

公開講演会「『民族』再考——日本と台湾から」

2022年11月11日(金)日経ホール(東京)にて開催！

※新型コロナウイルス感染症の予防のため、講演会を変更・中止する場合がございます。予めご了承ください。

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、公開講演会「『民族』再考——日本と台湾から」を2022年11月11日(金)に日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F)にて開催します。

【趣旨説明】

グローバル化の進行や大規模な人の移動とともに、人種差別、移民排斥、マイノリティ弾圧など、民族間の対立や分断が世界各地で先鋭化しています。日本も例外ではありません。自治体は多文化共生施策を推進していますが、外国人労働者問題や特定の民族へのヘイトスピーチ(憎悪表現)などはいぜんとして解決の方向に進んでおらず、むしろ深刻化しているようにさえ見えます。そもそも「民族」とは何でしょうか。民族という概念はどのようにつくられたのでしょうか。家族や地域の共同体、国民国家の流動化によって、民族のかたちも変わるのでしょうか。本講演会では、日本と台湾の事例を通して、これらの問題をあらためて考えてみたいと思います。



主催 国立民族学博物館 National Museum of Ethnology 日本経済新聞社



【講演1】日本における『民族』概念——その東アジアへの伝播とロシアとの比較を交えて

小熊 英二(慶應義塾大学総合政策学部 教授)

日本における「民族」の概念は、西洋の「人種」とどのように異なるのか。それはどのような経緯で発生し、政治的に利用され、東アジアに伝播したのか。本講演はその概略を述べる。

【講演2】多様なアイヌ民族とシサム(隣人としての和人)

齋藤 玲子(国立民族学博物館 准教授)

アイヌ民族を先住民族と明記した「アイヌ施策推進法」(通称)が施行されて3年。法律制定に至るまでの動きを概観し、文化やアイデンティティ、共生について考える。

【講演3】民族のモザイク——台湾の経験

野林 厚志(国立民族学博物館 教授)

かつて「高砂族」とよばれたオーストロネシア系先住民族の人々の歴史を紹介し、日本が時代をこえて台湾における民族の存在と向かい合っていく意義を考える。

【ディスカッション】

小熊 英二×齋藤 玲子×野林 厚志

【司会】

平井 京之介(国立民族学博物館 教授)

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。

【プログラム】

17:30	開 場	
18:30 - 18:35	開会挨拶	津川 悟(日本経済新聞社大阪本社 編集局長)
18:35 - 18:40	挨 拶	吉田 憲司(国立民族学博物館 館長)
18:40 - 19:05	講 演 1	小熊 英二(慶應義塾大学総合政策学部 教授) 「日本における『民族』概念——その東アジアへの伝播とロシアとの比較を交えて」
19:05 - 19:30	講 演 2	齋藤 玲子(国立民族学博物館 准教授) 「多様なアイヌ民族とシサム(隣人としての和人)」
19:30 - 19:55	講 演 3	野林 厚志(国立民族学博物館 教授) 「民族のモザイク——台湾の経験」
19:55 - 20:10	休 憩	
20:10 - 20:40	ディスカッション	小熊 英二×齋藤 玲子×野林 厚志
20:40	終 了	

【登壇者プロフィール】

**小熊 英二(慶應義塾大学総合政策学部 教授)**

近現代日本の社会意識を多角的に研究。近年の成果に“Racial and Ethnic Identities in Japan,” in M. Weiner (ed.) *Routledge Handbook of Race and Ethnicity in Asia*, pp.271-285 (2021)、『日本社会のしくみ: 雇用・教育・福祉の歴史社会学』(2019年、講談社)、『<日本人>の境界: 沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』(1998年、新曜社)など。

**齋藤 玲子(国立民族学博物館 准教授)**

アイヌ民族をはじめ北方地域先住民族の物質文化を研究、とくに工芸や観光、コレクション史に関心を寄せる。編著に『カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題(国立民族学博物館調査報告131)』(2015年)、論文に「アイヌ工芸の200年」山崎・伊藤編『世界のなかのアイヌ・アート』(2012年、北海道大学アイヌ・先住民研究センター)など。

**野林 厚志(国立民族学博物館 教授)**

専門は人類学。主要な研究のテーマは台湾の民族と文化、人間と生き物との関係、文明のなかの食文化。最近は日本に所在する台湾資料をオンライン公開、活用し、「情報遺産」としての学術資料のありかたにも関心をもつ。著書・編著書に『台湾インノシシを追う』(2014年、臨川書店)、『肉食行為の研究』(2018年、平凡社)など。

【開催概要】

講演名	公開講演会『民族』再考——日本と台湾から
日時	2022年11月11日(金) 18:30～20:40(開場17:30)
会場	日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F)
定員	300名(要事前申込み/先着順) ※手話通訳あり
ライブ中継	本講演は会場内のほか、WEBライブ中継(要事前申込み/定員なし/無料)でも参加いただけます。
主催	国立民族学博物館、日本経済新聞社

【申込み方法】

会場へ参加ご希望の場合もライブ中継参加ご希望の場合も、下記公式サイト内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/35746

2022年10月6日(木)受付開始予定

問合せ先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
 国立民族学博物館 研究協力課
 TEL 06-6878-8209 メールアドレス koenkai@minpaku.ac.jp

[お問合せ] 国立民族学博物館 総務課 広報・IR係
 電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
 プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press